

# デジタル名刺について

## Electronic business card

杉本昂大・上西涼花・田村亮・沼田佳歩

### はじめに

現代、日本の多くの社会人が紙の名刺を使っている。紙の名刺は管理が煩雑で、環境にも悪い。ネット社会のいま、大人たちが不便さを伴う紙の名刺を使い続けるのなぜなのかと気になり、今回の研究を始めた。

### 名刺の歴史

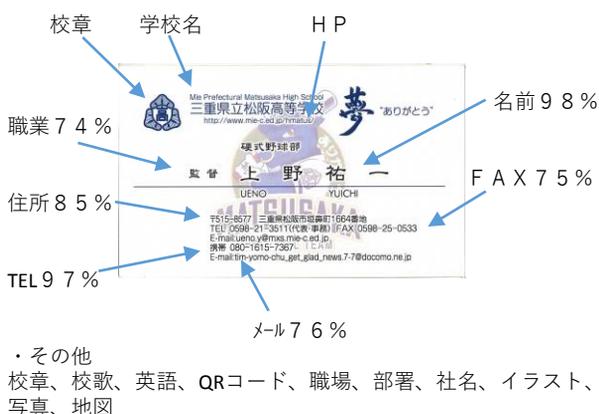
一般的に、中国が発祥であるといわれている。今から2000年以上前竹を割ったものに自分の名前を書いて使っていた。この竹のことを『刺』と呼んでおり、名前の書かれた『刺』ということで『名刺』と呼ばれるようになった。その後、名刺は16世紀にヨーロッパへ、ドイツでの使用を皮切りに、ヨーロッパ全土へ、その後アメリカ、ついには日本にも伝わっていった。日本で名刺が使われ始めたのは、江戸時代（19世紀初期）からと言われている。当初は、墨で名前を書いた和紙を、訪問先が不在だった際に置いてくるという使い方をしていた。開国後には手書きから印刷へと変化し、明治時代以降には必須のアイテムとなった。

### 実験・アンケート

119名に対してアンケートを行った。さらに、回答者の中で所持していると答えた人に対して、載せている情報と紙の名刺を使うことのメリットとデメリットについてアンケートを行った。

### 結果

アンケート対象者の67人、57%が名刺を所持していることが分かった。名刺を所持している人を対象にしたアンケートの結果は以下の通りとなっている。



#### ▷メリット

- ・コミュニケーションのきっかけとなる 66%
- ・個人情報を得やすい 66%
- ・個性を出すことができる 19%
- ・その他 9%
- ・相手側が不在時に訪問した証とメモを残すことができる
- ・相手がどのような意図をもって名刺交換を行っているかみることができる
- ・別件でも連携が可能になる
- ・情報を残すことができる
- ・あとから思い出すきっかけとなる

#### ▷デメリット

- ・管理がしづらい 40%
- ・情報の変更、追記、削除が難しい 38%
- ・マナーが難しい 13%
- ・コストがかかる 13%
- ・その他 1%
- ・相手の顔と名前が一致しない時がある
- ・手持ちの枚数が制限や置き忘れる時がある
- ・個人情報の悪用

### 提案

名刺に載せられている情報は、結果のように必要最低限の情報であることが分かった。そのほとんどは、携帯やパソコンを用いて相手と連絡するための連絡先であった。私たちは、今回行ったアンケートと10代から40代の各年代での日本人のスマートフォン所持率が80%かそれ以上であること（総務省ホームページ）から、仕事用途にデジタル名刺を使うことを提案する。

- ・情報を複数人と同時に交換することができる。
- ・なくしたり、かさばらずに管理することができる。
- ・電話番号やメールなどの情報の変更をしやすい。
- ・短時間で作成可能なため手軽に作るができる。
- ・連絡を気軽にとることができる。
- ・データの紛失や重複リスクを回避できる。



### 課題

デジタル名刺の提案にはまだ大きな課題があるといえる。具体的には以下の通りである。

- ・個人の使用する端末の違いがあるので使用できる範囲が限られる。
- ・電源がないと交換を行えない。
- ・統一フォーマットが確立されていないので、各会社や個人により使用が左右される。
- ・コストがかかる

### 謝辞

今回の研究に際して、たくさんの方々にアンケートの協力及び名刺の提供をしていただきました。心より感謝申し上げます。

### 参考資料

総務省30年度情報通信機器の保有状況

[http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h30/html/nd25211\\_0.html](http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h30/html/nd25211_0.html)

[sansanhttps://jp.corp-sansan.com/news/2014/140331\\_4180.html](https://jp.corp-sansan.com/news/2014/140331_4180.html)